令和６年産

小麦技術情報No.３

令和６年２月９日
巻農業普及指導センター

～越冬後の管理ポイント～

○ 越冬後の生育を促すため、融雪水は早期に排水しましょう。
○ 雑草の種類と生育状況を確認し、必要に応じて生育期処理用除草剤を遅れずに散布しましょう。
○ 越冬後追肥は、小麦の生育量に合わせて、適期に実施しましょう。

１　消雪後の排水対策

融雪水の停滞は、土壌の酸欠状態を招き、根腐れや枯死といった障害の発生につながります。

（１）暗渠栓の開放を確認するとともに、周囲明渠や排水溝、排水口、排水路の点検・補修を行い、排水を促進し、停滞水を迅速に排除しましょう。

（２）降雨後のほ場内の地表水が、排水路まで確実に流れるよう、定期的に明渠や排水口を点検整備し、湿害の防止に努めましょう。

土塊が詰まって排水機能に支障がでないよう、点検・補修を行いましょう。

２　雑草防除

越冬後に雑草の生育が旺盛になると、小麦と養分を競合し、小麦の穂数や１穂粒数、千粒重を低下させ、減収の原因となります。また、病害の発生要因にもなるので、雑草の発生が多い場合は早めに防除を徹底しましょう。

薬剤名	適用雑草	使用量	散布液量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	備考
アクチノールB乳剤	一年生広葉雑草	100～200 mL/10a	70～100 L/10a	雑草茎葉散布又は全面散布	穂ばらみ期まで（雑草生育初期）	2回以内	
バサグラン液剤	一年生雑草（イネ科を除く）	100～200 mL/10a	70～100 L/10a	雑草茎葉散布又は全面散布	生育期（但し収穫45日前まで）	1回	
ハーモニー75DF	スズメノテッポウ一年生広葉雑草	5～10 g/10a	50～100 L/10a	雑草茎葉散布又は全面散布	麦3葉期～節間伸長前	1回	必要に応じて展着剤を加用する
	一年生広葉雑草	3～10 g/10a	50～100 L/10a	雑草茎葉散布又は全面散布	節間伸長開始期～穂ばらみ期（但し収穫45日前まで）		

（農薬最新登録日：2024年2月1日）

農薬を使用する際は農薬使用基準に基づき、使用者責任を理解して使用してください。
散布にあたっては周辺ほ場に飛散しないように風向き等に細心の注意を払ってください。

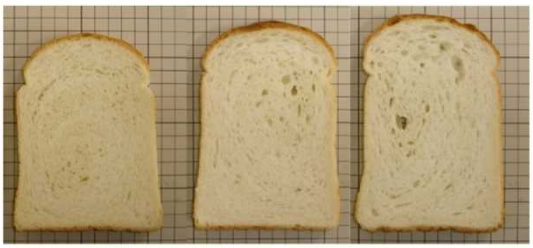
３　越冬後追肥

越冬後追肥は、穂数や１穂粒数を確保するとともに、千粒重の増大に効果がありますが、過剰施肥を行うと倒伏の助長や、白色未熟粒の発生が多くなり、加工適性の低下につながります。生育量に合わせて適期に追肥しましょう。

<table>
<tr><th>追肥時期</th><th>効果</th><th>10aあたり
追肥成分量</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>消雪直後
（３月上～中旬）
 </td><td>○越冬による
消耗の回復
○穂数の増加</td><td>窒素：３kg
カリ：２～３kg</td><td>○　消雪直後の茎数を確認し、追肥量を調節する。
<table><tr><th>消雪後茎数</th><th>10aあたり窒素成分量</th></tr><tr><td>700本/㎡未満</td><td>4～5kg</td></tr><tr><td>700～1,000本/㎡</td><td>3kg</td></tr><tr><td>1,000本/㎡以上</td><td>実施しない</td></tr></table>○　融雪水が流出し、作業が可能になってから行う。
○　消雪後追肥は、日平均気温が4～5℃以上にならないと肥効が現れない。
平年値は
４℃以上→３/５
５℃以上→３/14</td></tr>
<tr><td>茎立期
（４月中旬）
主茎の稈長が2cmになった時期
 </td><td>○穂数の増加</td><td>窒素：１～２kg</td><td>○　茎立期の茎数と葉色を確認し追肥量を調節する。
<table><tr><th>茎立期茎数</th><th>葉色
(SPAD)</th><th>10aあたり
追肥量</th></tr><tr><td rowspan="2">600本/㎡未満</td><td>42未満</td><td>2kg</td></tr><tr><td>42以上</td><td>1～2kg</td></tr><tr><td rowspan="2">600本/㎡以上</td><td>42未満</td><td>1～2kg</td></tr><tr><td>42以上</td><td>実施しない</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>止葉抽出期
（４月下旬～５月上旬）
 </td><td>○１穂粒数、
千粒重の増加</td><td>窒素：１～２kg</td><td>○　茎数が多い（500本/㎡以上）場合は１～２kg減肥する。
<table><tr><th>止葉抽出期
茎数</th><th>葉色
(SPAD)</th><th>10aあたり
追肥量</th></tr><tr><td rowspan="2">500本/㎡未満</td><td>45未満</td><td>2kg</td></tr><tr><td>45以上</td><td>1～2kg</td></tr><tr><td rowspan="2">500本/㎡以上</td><td>45未満</td><td>1～2kg</td></tr><tr><td>45以上</td><td>1kg未満</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>穂揃期
（５月上中旬）
 </td><td>○タンパク質含
有率の向上</td><td>窒素：４～６kg</td><td>○　タンパク含有率が高まり、製パン適性が向上するため、必ず適量を施用する。</td></tr>
</table>

「穂揃期」画像：日本海側砂丘地・気候における砂丘畑地パン用小麦の栽培技術マニュアルより

※（　）内のはめやすの時期で年次間差に注意



追肥量0kg/10a　比容積4.0ml/g　　追肥量4kg/10a　比容積4.3ml/g　　追肥量8kg/10a　比容積4.6ml/g

製パン用強力粉の原料として小麦栽培を行う場合、**穂揃期追肥はタンパク質含有率を高めるために重要な追肥**です。パン用小麦のタンパク質含有率基準値（11.5～14.0%）を安定して満たすことで、食パンの膨らみが良好となり、柔らかく仕上がります。